燕市森林整備推進プラン（素案）

令和７年１２月版

目次

１　森林の状況・策定の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

２　計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

３　基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

４　優先順位・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

５　参考・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

(1) 策定経過・委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
(2) 第１回委員会資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
(3) 第２回委員会資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

1　森林の状況・策定の目的

燕市は、新潟県の県央地域、新潟市と長岡市の中間に位置し、市の南端部を流れる信濃川は大河津分水路に分流し、それぞれ日本海に流れています。市の南北を縦断する西川、信濃川から分流し燕地区の市街地を経由する中ノ口川、市の中央部を流れる大通川が本市の地形をかたどっています。

燕市の総面積 11,094ha のうち、約 648ha が森林であり、そのうち約 246ha が人工林となっています。

燕市における森林の面積は総面積のうち、約６％であり、2025 年時点では林業は行われていません。

燕市においては林業事業体がいないことや、所有者の代替わりや高齢化などによって所有者自身での森林整備が進んでおらず、森林の荒廃化や山地災害の発生などが懸念されるところです。

こうした状況を踏まえ、森林環境譲与税を活用した森林整備を推進していくため、燕市森林整備推進プランを策定しました。

2　計画の期間

令和８（2026）年度から令和 17（2035）年度までの 10 年間を計画期間とします。

なお、計画の期間中であっても、法制度が改正された場合や社会状況の変化等が生じた場合、計画と実態に乖離が生じた場合、計画の実行に支障が生じた場合などには必要に応じて見直しを行うこととします。

国上山

３　基本方針

燕市森林整備推進プラン策定における基本方針は以下の２点です。

≪方針１≫：安全を重視

燕市における森林は、市の総面積のわずか６％ほどに過ぎず、林業事業体も存在していないことから積極的に林業を営んでいくことは難しい状況であります。

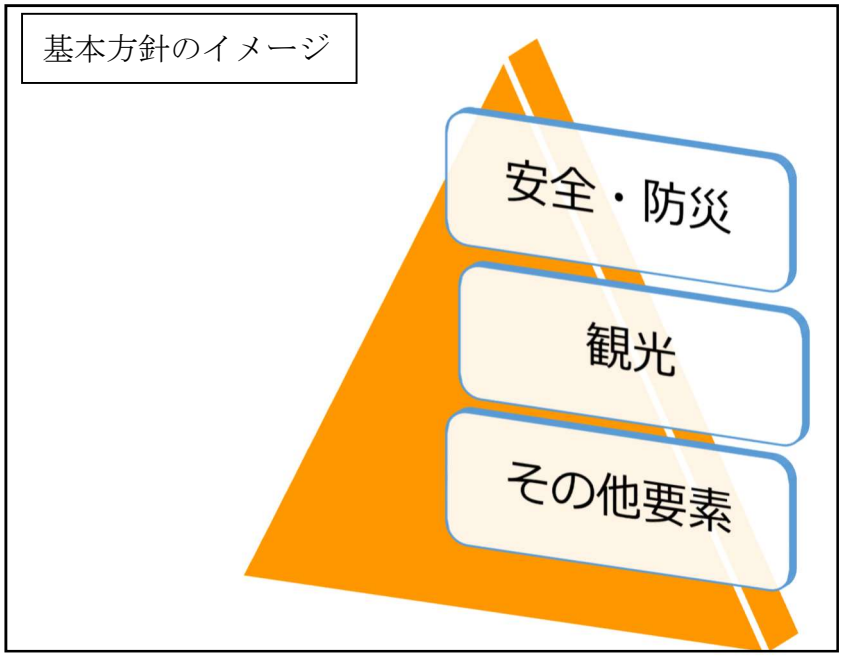
また、急峻地が多いことから地形的に林業に適している森林ではありません。

林業に適していない森林において、市による森林整備を行う理由として、一番に考えることを安全・防災としました。

適切な森林整備を行うことで倒木や土砂災害のリスクやイノシシなどによる獣害の軽減が見込まれ、安全・安心な森林へと誘導を図ります。

また、燕市の山林を代表する国上山周辺には道の駅 SORAIRO 国上や五合庵などといった観光スポットが多数存在し、毎年多くの観光客が訪れる観光地にもなっています。

このことから、市による森林整備を行う理由として、観光、その他要素についても現況を把握しながら考慮していくこととしました。



≪方針２≫：整備の対象はスギの人工林

燕市の森林は 648ha ありますが、そのうち 246ha は人工林となっており、そのほとんどがスギとなっています。

スギは、生育が早く加工がしやすいことから林業に適した樹種ではありますが、木材としての価値を上げるためには枝打ちや間伐などを行い、適正な管理をしていく必要があります。

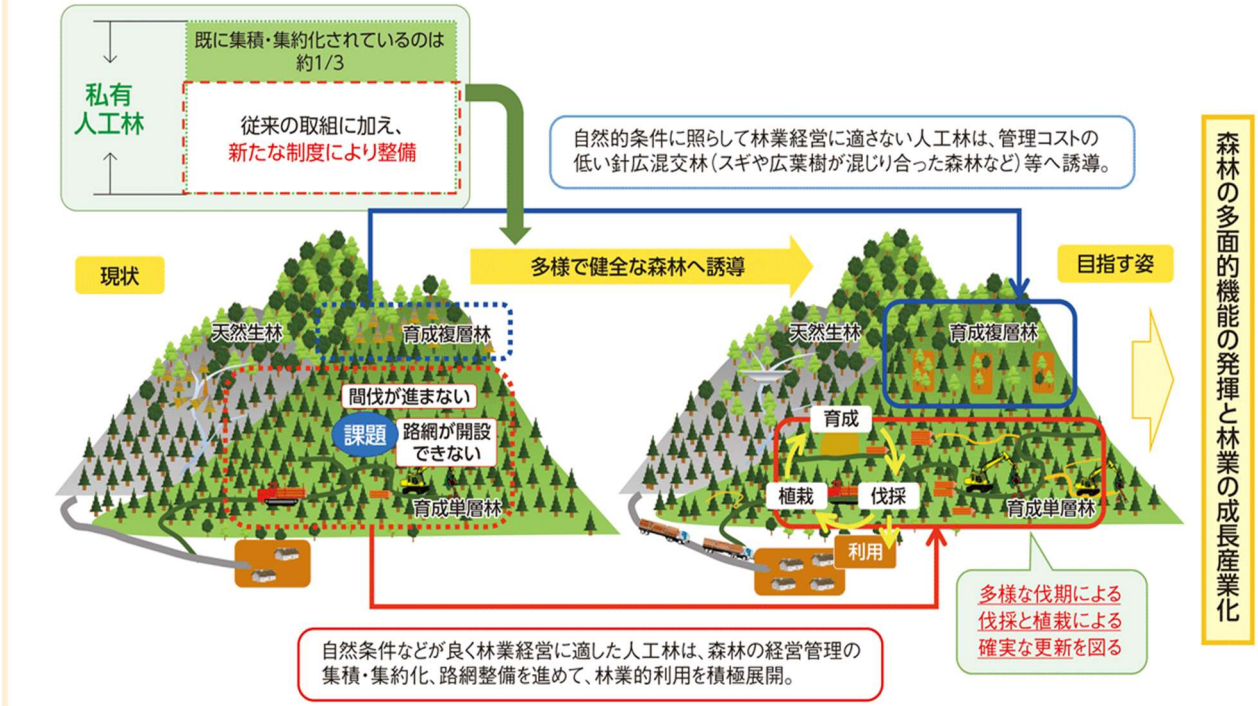
燕市においては、林業事業体がおらず、また所有者の代替わりや高齢化によって、所有者自身での管理も難しいことから、今後も枝打ちや間伐といった管理が行われることに期待はできない状況で、燕市の山林において樹種がスギであることのメリットはあまりありません。

そのため、整備の対象は人工林（スギ）とし、森林全体を針広混合林化又は広葉樹林化を目指します。

整備の対象をスギの人工林とし、針広混合林化又は広葉樹林化を図っていくことで、管理の手間がスギと比較してかからなくなっていくことや倒木のリスクの軽減、花粉症の発生源の抑制、景観の向上などといった効果が見込まれます。

資料Ⅰ－13　多様で健全な森林の整備のイメージ

参考：林野庁 HP より



4　優先順位

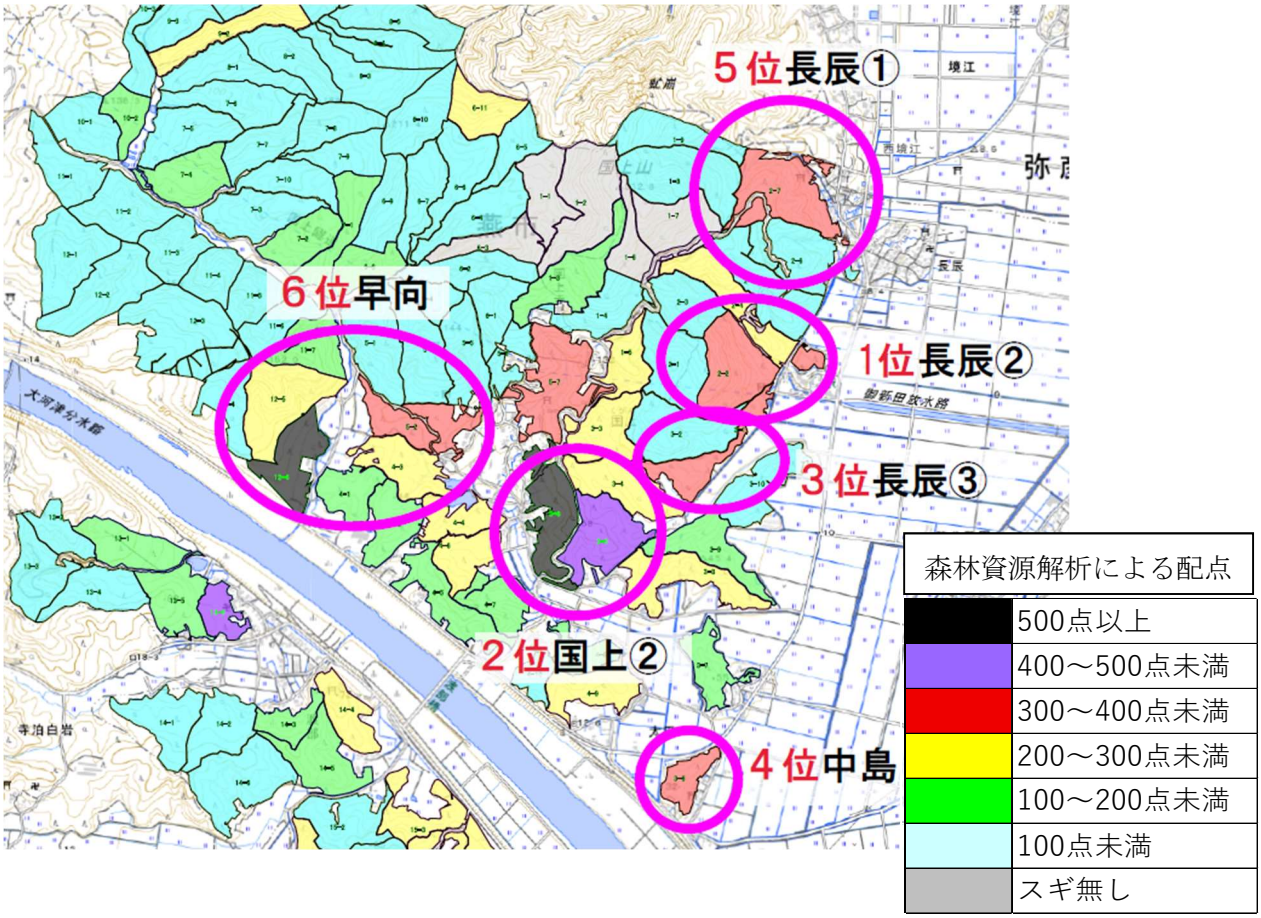
上記に掲げた基本方針のもと、森林と道路や施設等との位置関係、土砂災害警戒区域、航空レーザにより取得した森林データなどを活用し、優先順位を決定しました。

具体的な手法としては第１回の委員会にて森林の点数化を行い（参考資料：8 ページから 12 ページ)、点数の高かった箇所を対象に第２回の委員会にて精査を行いました。（参考資料：22 ページから 33 ページ)

森林整備の優先順位については以下のとおりです。

なお、１箇所の施業に複数年要します。

優先順位	1	2	3	4	5	6
施業箇所	長辰②	国上②	長辰③	中島	長辰①	早向



5　参考

(1) 策定経過・委員名簿

策定経過

	日程	内容
第１回燕市森林整備推進プラン策定委員会	7 月 25 日	① プランの構成及び計画策定における基本方針について ② 森林資源の解析について ③ 「指標」と「配点」について
第２回燕市森林整備推進プラン策定委員会	9 月 18 日	① 前回委員会での意見・提案の整理 ② 自治会長向けアンケート結果について ③ ゾーニング及び各箇所評価について
第３回燕市森林整備推進プラン策定委員会（書面）	11 月 19 日	書面によるプラン（素案）の確認

委員名簿

委員長	
新潟大学農学部　教授	村上　拓彦
委員	
長岡地域振興局　農林振興部林業振興課　技術専門員	川瀬　豊
新潟県農林公社　地域林政アドバイザー	江川　浩之
燕市観光協会　事務局長	高山　貴博
中越よつば森林組合　理事兼参与　刈谷田支所長	鈴木　浩一

(2) 第１回委員会資料について

森林資源の解析について

森林資源の解析を行い、区域（小班）ごとに以下の指標・配点から点数づけを行いました。

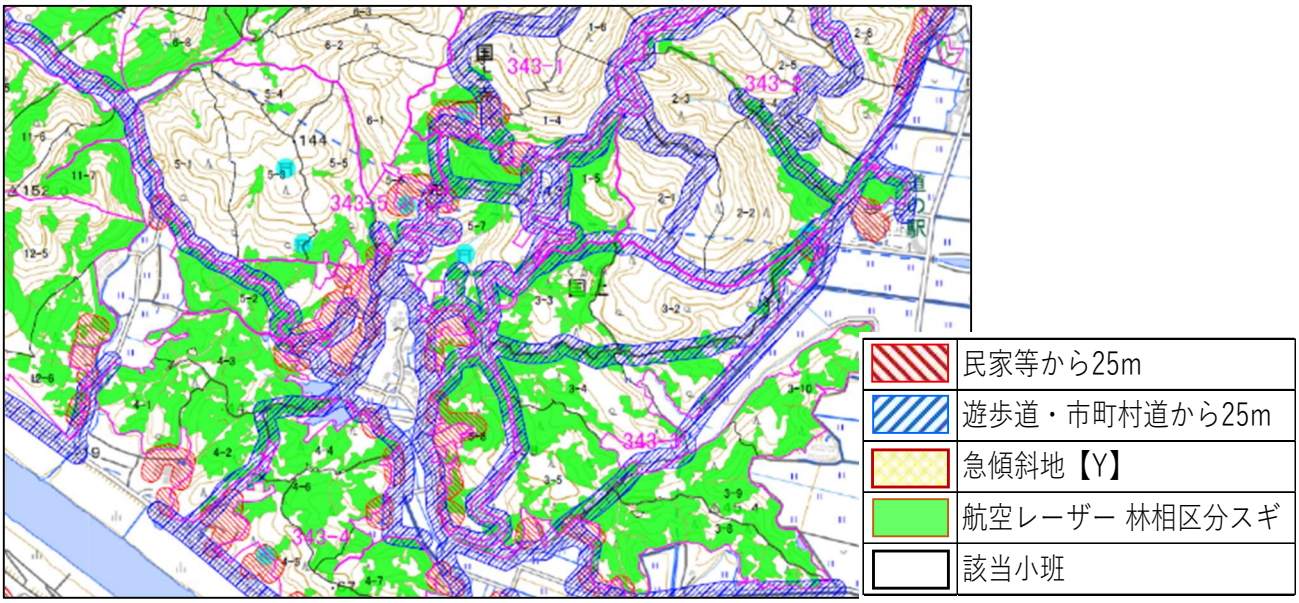
配点表

指標	配点	用語解説	理由
社寺	1.90	社寺から25m圏内	人命+財産なので高得点
民家等	1.90	民家等から25m圏内	人命+財産なので高得点
遊歩道市町村道	1.75	遊歩道市町村道から25m圏内	倒木した際に道に木が出てくる距離として25mを想定
急傾斜地R	1.80	県が指定する土砂災害特別警戒区域のレッドゾーン（急傾斜地の崩壊）	防災の観点から指標に加えた
急傾斜地Y	1.75	県が指定する土砂災害警戒区域のイエローゾーン（急傾斜地の崩壊）	防災の観点から指標に加えた
土石流R	1.80	県が指定する土砂災害特別警戒区域のレッドゾーン（土石流）	防災の観点から指標に加えた
土石流Y	1.75	県が指定する土砂災害警戒区域のイエローゾーン（土石流）	防災の観点から指標に加えた
相対幹距比 相当の混み過ぎ	1.80	上層木の平均樹高に対する平均個体間距離の割合 ・14%以下は相当の混み過ぎ ・17%以下は混み過ぎ ・20%くらいが適当 ※木が混み過ぎると自然枯死する	木の密度を表す数値として指標に加えた
相対幹距比 混み過ぎ	1.40		
相対幹距比 適当	1.00		

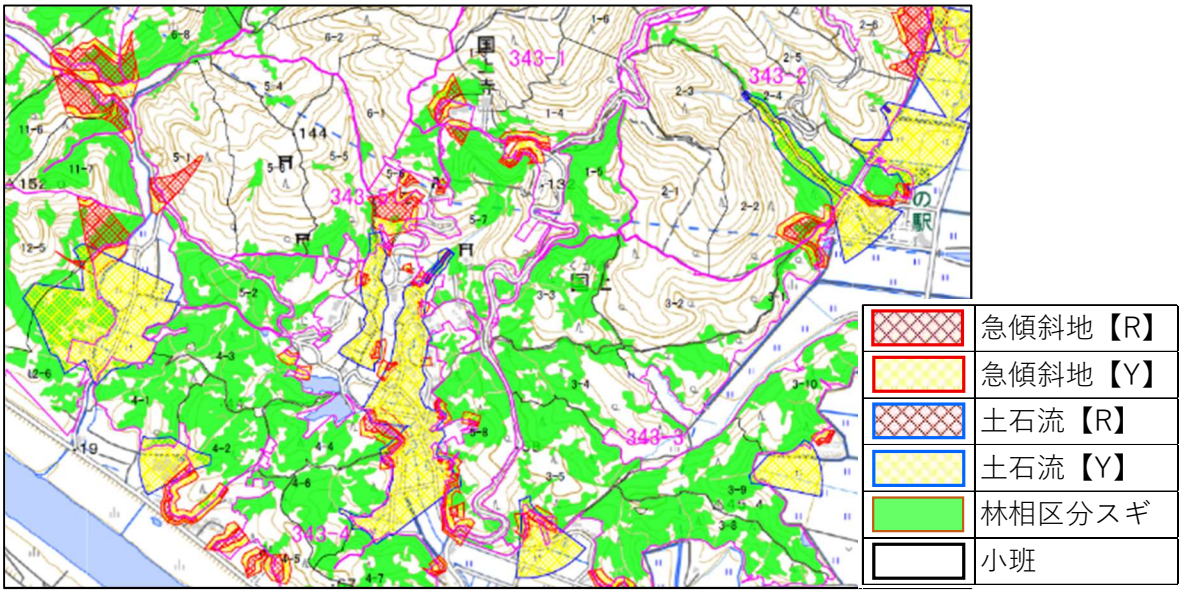
土砂災害（特別）警戒区域【地すべり】について

地すべりは、地下水が原因となっていることが多く、森林整備により災害を防ぐことは難しいと判断したため、指標から除外しました。

①地図データの重ね合わせ
新潟県森林計画図、航空レーザー計測による林相区分【スギ】をベースとして、指標とする各種地図データを重ね合わせる。
・施設：社寺、民家等、遊歩道・市町村道



施設データ表示例
森林データ解析_施設

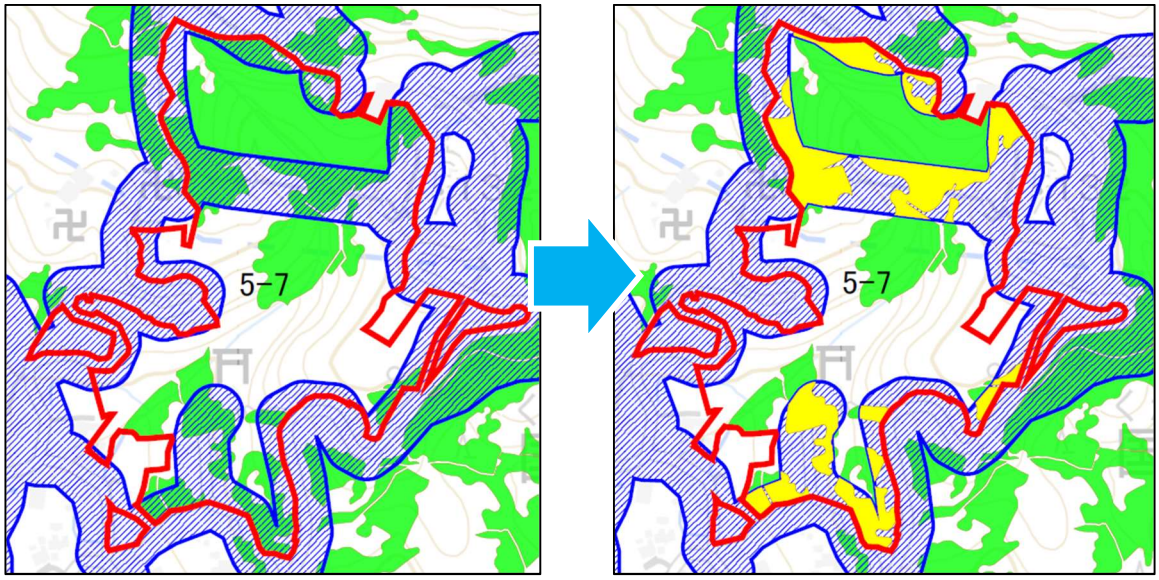


土砂災害(特別)警戒区域データ表示例
森林データ解析_土砂災害

②指標ごとの対象面積を算出

区域（小班）ごとに林相区分スギ（航空レーザー計測）と重なった指標の区域を抽出して面積を算出する。
面積を基準として【面積(a)×配点】により点数を算出する。
※相対幹距比はレーザー計測結果を元に、小班内の面積割合より算出する。

例：遊歩道・市町村道 25mバッファとの重なりから点数を算出（小班ごと）



	遊歩道・市町村道から25m
	航空レーザー 林相区分スギ
	小班

林相区分スギと重なっている区域（黄色）を抽出し、面積(a)を取得

林相区分スギと遊歩道・市町村道の重なり：158.83(a)
遊歩道・市町村道 25m 圏内配点：1.75

小班の遊歩道・市町村道 25m 圏内の点数
158.83(a)×1.75=277.9525 点

相対幹距比はレーザー計測結果からデータを抽出し、小班内の面積割合から点数を算出する。

※面積(a)を基準に算出した場合は、スギの面積が大きい小班の点数が極端に上昇することになり、相対幹距比の点数の比重が大きくなりすぎるため

≪算出方法≫

・レーザー計測結果に格納されているスギの相対幹距比（森林計画図の施業区域単位）を抽出する
・以下の相対幹距比区分ごとに小班ごとの面積合計を算出する
　14%未満【相当の混み過ぎ】
　14%以上 17%未満【混み過ぎ】
　17%以上【適当】
・相対幹距比区分ごとの面積割合から点数を算出する

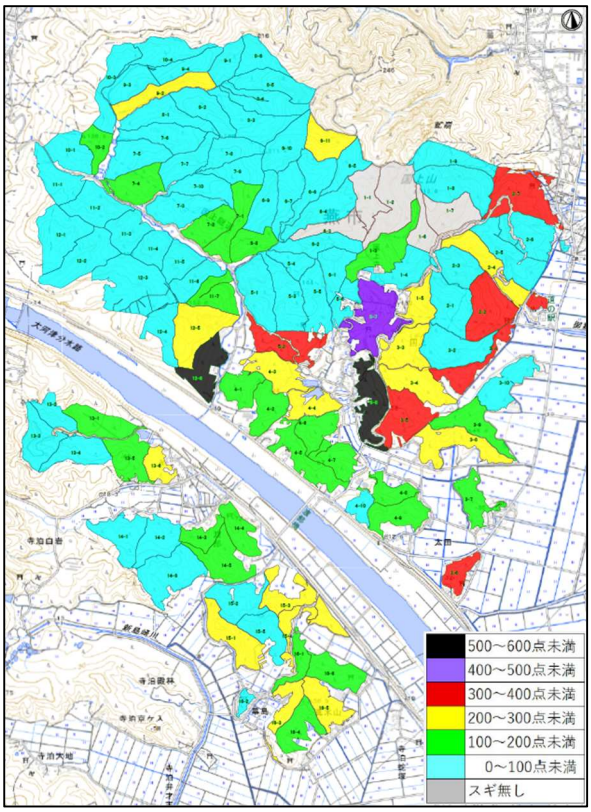
算出例：小班内に 3 つの区分が混在する場合

14%未満【相当の混み過ぎ】	：小班面積の 10%	1.8×10 ＝	**18 点**
14%以上 17%未満【混み過ぎ】	：小班面積の 30%	1.4×30 ＝	**42 点**
17%以上【適当】	：小班面積の 5%	1.0× 5 ＝	**5 点**
			合計 **65 点**

③指標の合算
区域（小班）ごとに指標の点数を合算し、総合点数を算出。

点数区分	点数合計	林班	小班	社寺 25m 面積a×1.9		民家等 25m 面積a×1.9		遊歩道市町村道 25m 面積a×1.75		急傾斜地 R 面積a×1.8	
				面積a	点数	面積a	点数	面積a	点数	面積a	点数
4	360.69	3	6	8.87	16.86	88.42	167.99	16.64	29.12	12.41	22.34
2	138.42	3	7	9.55	18.14	34.26	65.09			0.74	1.34
3	239.06	3	8			18.73	35.58	52.91	92.58	0.91	1.63
2	150.45	3	9					21.94	38.40		
1	92.20	3	10							0.30	0.54
2	152.62	4	1			7.62	14.47	5.19	9.09		
2	199.27	4	2			2.30	4.38	47.05	82.34	0.01	0.02
3	208.60	4	3			12.00	22.79	41.18	72.06		
3	236.00	4	4			6.38	12.12	52.69	92.21	6.73	12.12
2	141.54	4	5	5.10	9.69	37.13	70.54	8.38	14.67	3.10	5.58
2	147.56	4	6			15.93	30.27	2.66	4.65	0.11	0.20
2	138.13	4	7			7.98	15.16	19.45	34.05	0.84	1.52
2	100.62	4	8			15.78	29.98	1.72	3.00	2.13	3.83
2	153.10	4	9			21.54	40.92	1.63	2.85	3.50	6.30
1	84.59	4	10			4.07	7.73	4.57	8.00		
1	7.37	5	1					4.21	7.37		
4	306.09	5	2			8.56	16.27	114.18	199.81		
1	10.97	5	3	1.54	2.93						
1	8.70	5	4								
1	71.05	5	5	2.45	4.66	8.27	15.71	1.82	3.18	1.57	2.83
1	99.52	5	6			3.73	7.09	24.66	43.15	3.73	6.71
5	468.22	5	7	0.93	1.76	32.27	61.32	158.83	277.95	13.68	24.63
6	577.35	5	8			109.41	207.87	113.92	199.37	8.92	16.06

区域（小班）ごとの点数一覧表を作成



点数区分による区域色分け図を作成

第１回策定委員会での解析に関する意見・提案

・指標「〇〇から 25m以内」について、スギの樹高を 25m と想定しているが、それより高いスギも存在する。25m以内を指標にしてよいのか。

・土砂災害危険区域の基礎調査の結果を点数に反映できないか。

・山地災害危険区域を指標に加えられないか。

・「施業のしやすさ」として、傾斜を指標に加えられないか。

・点数化をしているが、現地にいったらなかなか急斜面で施業ができないということも考えられる。

・一概に点数が高いからとすると施業が大変なところばかりになる可能性がある。

（3）第２回委員会資料について

指標「●●から 25m 以内」について

事務局

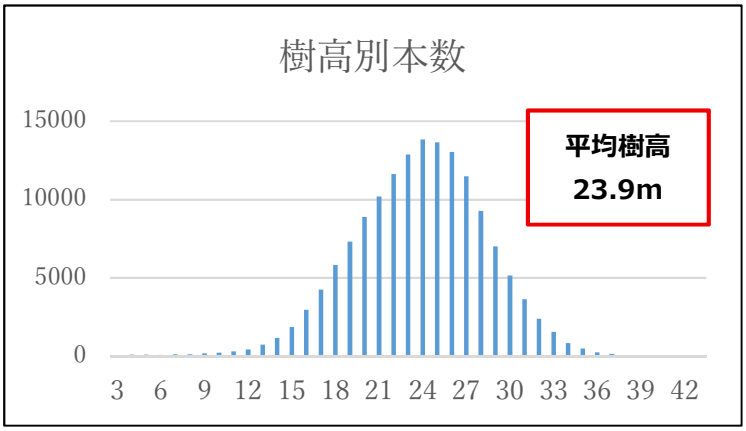
道路や民家等から 25m以内にスギがある場合、倒木の際に人命及び財産に危険が及ぶ恐れがあるとして「●●から 25m 以内」という指標を設定し、点数化した。

意見

樹高を考えると、25m 以内というのは場所によっては足りないのではないか。

検討

樹高別本数とその分布の解析を行った。



20m未満	本数	30,191
	割合	19.8%
25m未満	本数	59,886
	割合	39.3%
30m未満	本数	50,468
	割合	33.1%
35m未満	本数	11,115
	割合	7.3%
40m未満	本数	676
	割合	0.4%
40m以上	本数	11
	割合	0.0%

調査の結果として、25m 未満の樹高の木は全体の約 6 割を占めるものの場所によっては 25m 以上の木も存在していた。

しかし、実際の倒木の危険性は傾斜の向きや角度等といった地形によっても変わってくるため、一概には樹高と同じ距離分の森林整備を行えば、その範囲が安全になるとは言えない。

案

点数化の指標としては平均樹高に近似している 25m 以内を採用。ただし、施業を行う際には現場状況を考慮し、25m 以内に縛られず必要な施業を行う。

指標「土砂災害危険区域」「山地災害危険区域」の検討について

事務局

土砂災害危険区域のレッドゾーン、イエローゾーン、急傾斜地を点数化のための指標とした。

意見

①土砂災害危険区域の基礎調査の結果を活用したらどうか。
②山地災害危険地区を指標に含めたらどうか。

検討

上記の二つを指標に含めるべきか検討を行った。

①基礎調査の内容を確認したが想定していたような内容ではなかったため指標に加えるのは断念した。

②山地災害危険地区は山腹崩壊危険地区、崩壊土砂流出危険地区、地すべり危険地区の 3 つに分類されるが、その内山腹崩壊危険地区だけ指標に含めることとした。

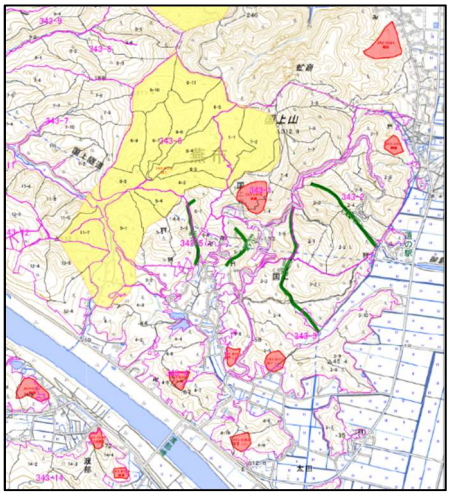
崩壊土砂流出危険地区
→エリアが線で指定されており、重なりによる加点ができない。

地すべり危険地区
→地すべりと森林整備に因果関係はない。

案

山腹崩壊危険地区のみ指標に加え、
その他は参考とする。

	山腹崩壊危険地区
	地すべり危険地区
	崩壊土砂流出危険地区



山地災害危険地区

施業のしやすさについて

意見

・点数化をしているが、現地にいったらなかなか急斜面でできないということも考えられる。

・一概に点数が高いからとすると大変なところばかりになる可能性がある。

検討

「施業のしやすさ」を図る指標として「傾斜」をいれるかの検討を行った。

航空レーザ計測の結果により、小林班単位の平均傾斜を確かめることはできる。（一部計測できなかった箇所あり）

林班	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
小班	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1
平均傾斜	26.0	30.0	27.0	29.4	28.8	32.7	30.6	33.7	23.2	23.4

・・・

しかし、平均傾斜は今回の図形を重ねる方法では点数化できない。

実際の施業のしやすさは道からの近さや民家等との距離によっても変わってくる。

案

傾斜など「施業のしやすさ」については指標にはいれずに、ゾーニング及び各箇所評価で検討を行う。

データ解析修正

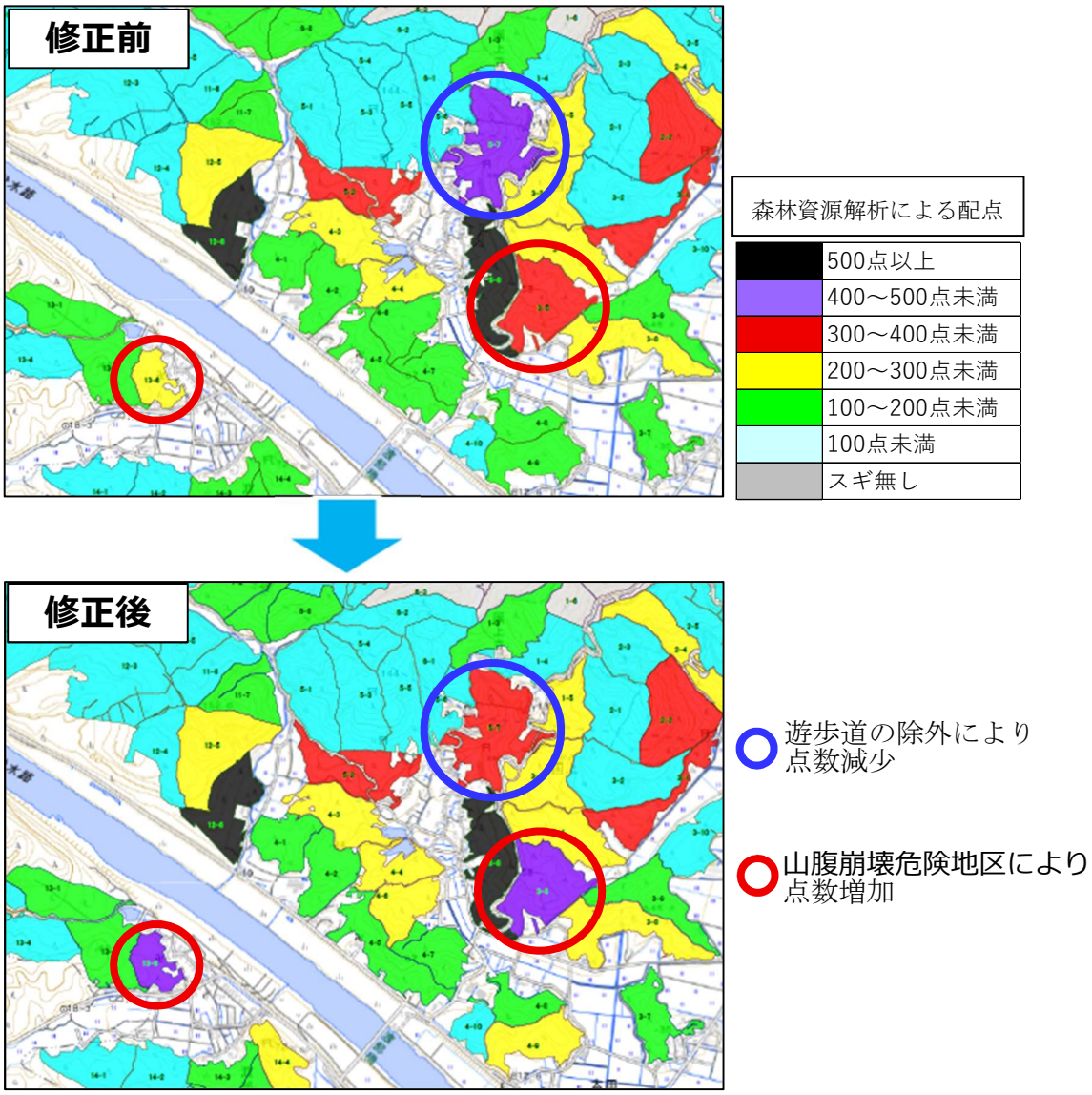
前回のデータ解析から、以下の点を修正

- 遊歩道市町村道から国上山のつり橋部分を除外
- 山地災害危険地区【山腹崩壊危険地区】を指標に追加

解析修正結果

- 小班別集計_修正
- 森林データ解析_小班点数区分_修正

修正の結果、点数が大きく変わった高得点の小班は以下の通り



自治会長アンケートについて

山林の現状把握とともに地域の意向を取り入れるため、7 地区の自治会長へアンケートを実施しました。質問事項は以下の通りです。

①市による森林整備にどのようなことを期待しますか。（選択）
- 土砂災害・倒木のリスク軽減
- 景観の向上
- 花粉症対策（スギを減らす）
- 害獣（イノシシ等）被害の減少
- その他

②市による森林整備で燕市の森林がどのようになってほしいと思いますか。（自由記述）

③自治会内の森林で問題に感じている場所があれば、その場所とその問題の詳細を教えてください。（地図に記入）

アンケートの回答は以下の通りです。

【回答①】市による森林整備に期待すること

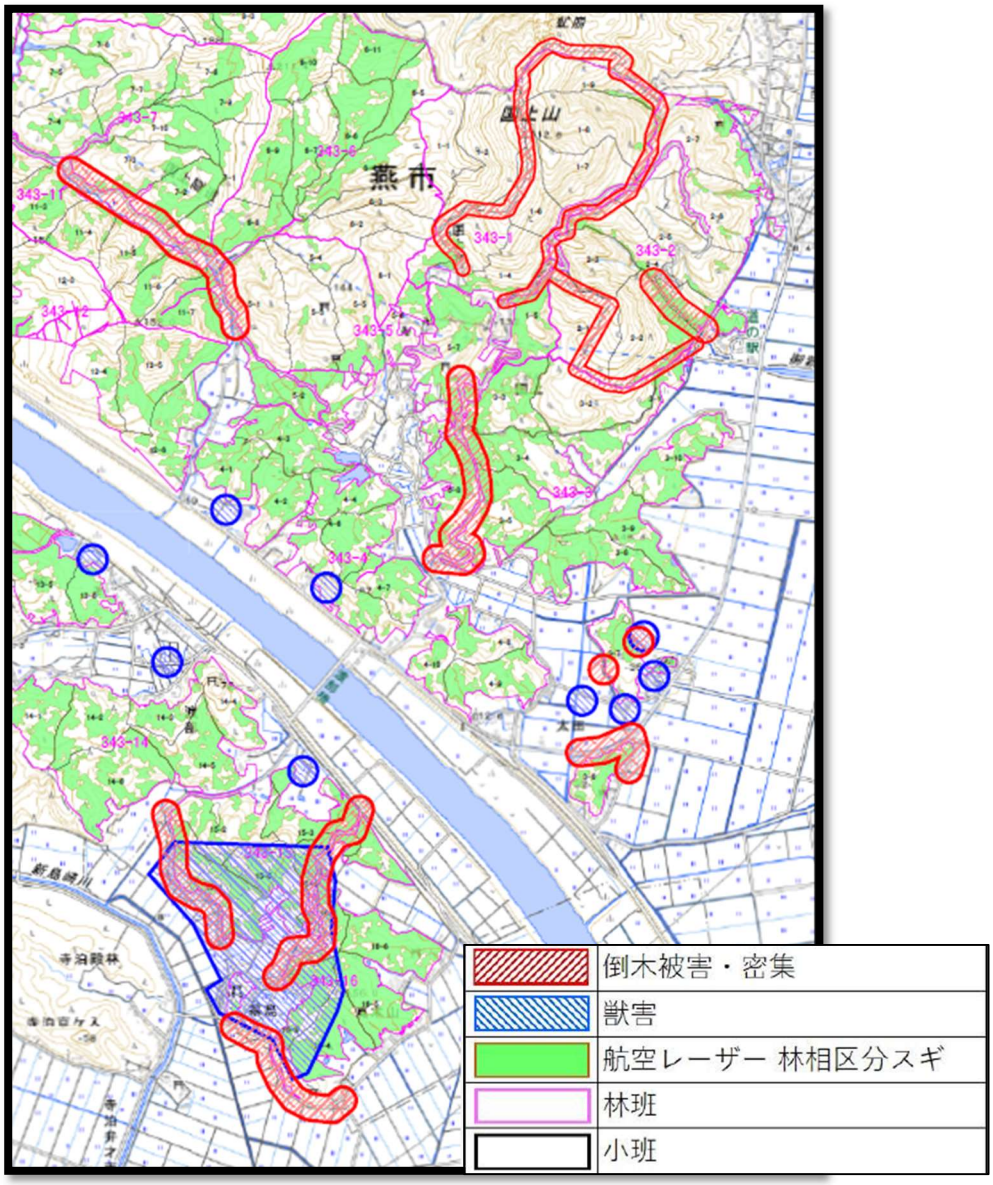
	国上	長辰	太田	中島	渡部	幕島	真木山
土砂災害倒木のリスク軽減	○	○	○	○	○	○	○
景観の向上		○			○		
花粉症対策（スギを減らす）					○	○	
獣害（イノシシ等）被害の減少	○	○	○		○	○	○
その他							

【回答②】森林がどのようになって欲しいか、その他の問題

国上	**森林がどのようになって欲しいか**	
	倒木/密集	・道路沿いの樹木が大きくなり、日射を妨げているとともに、倒木の危険性が高いため、伐採して日当たり、見通しの良い森林にして欲しい。
	その他（問題など）	
	獣害	・イノシシ、サル、シカがいる。
長辰	**森林がどのようになって欲しいか**	
	倒木/密集	・現状は、山がほとんどスギ林だが、計画的に広葉樹を植林してはどうか。明るくなるし、景観もよくなると思う。 （例）道の駅の後ろ 国上山沿いの道の周り 国上山登山道や稚児道の周り
	その他（問題など）	
	その他	・山に入ることも少なく、現状を把握している人がいない。
太田	**森林がどのようになって欲しいか**	
	倒木/密集	・例題の通り（木が混みあって暗い森林が多いので、適度に伐採して光が差し込むような明るい森林になって欲しい）
	その他（問題など）	
	獣害	・去年からサル・イノシシが畑・田を荒らしている（人家のすぐ近くに出てきている）
	倒木/密集	・近年の重い雪のため、春先2年連続で倒木の処理等を住民参加で行っているが、春先の農機具の往来に支障がある。
	所有者	・世代交代が激しく、山の持ち主がよく分からなくなってきている。
中島	**森林がどのようになって欲しいか**	
		・なし（そもそも森林が少ない）
	その他（問題など）	
	倒木/密集	・樹木が道路沿いに繁茂している箇所があるので、整備してほしい。
渡部	**森林がどのようになって欲しいか**	
		・なし
	その他（問題など）	
	獣害	・イノシシが出るので森林整備で抑えられると良い。

幕島	**森林がどのようになって欲しいか**	
	倒木/密集	・森林が荒れて人間が入れないところが多いので、適度に伐採して整備して欲しい。
	その他（問題など）	
	倒木/密集	・住宅の周辺に大木が隣接しているため、自然災害時に非常に不安でしかたがない。 ・住民の安全を守って欲しい。
	所有者	・倒木が発生した際、所有者が分からず、市に問い合わせても個人情報のため回答が得られず、処理したくてもできないことがあった。
真木山	**森林がどのようになって欲しいか**	
	倒木/密集	・林の周囲の草刈り、枝打ちがなされ、見た目も整然とした林になって欲しい。 ・土砂災害に備え、住宅近くの樹木の管理をして欲しい。
	その他（問題など）	
	倒木/密集	・スギ林が間伐されず、藤づるが絡みつき、風雨や降雪で倒れている。 ・林の周辺では、つるや草木が伸び、草刈りが行き届かず、林が広がる傾向にある。 ・土砂災害対策として、家の裏の木を切ったほうがいいのかどうかも分からない。
	獣害	・野生動物の被害にも関連していると思われる。 ・タヌキやアナグマも出る。

【回答③】問題に感じている場所（地図に記入）



アンケート地図

アンケート総括

・倒木/密集、獣害の問題は、特定の地域に限定しているのではなく、市全域で共通している。

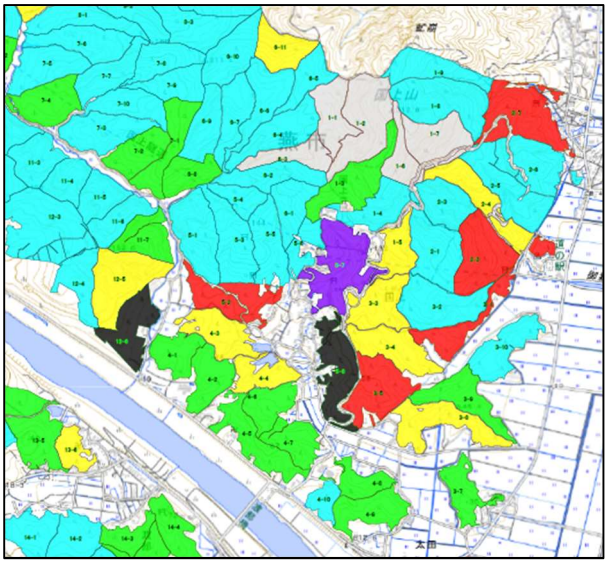
・倒木は、主に雪の重みが原因となっている。

・獣害は昨年（令和６年）から急増している。

・住民の安全を守ることが望まれている。

ゾーニングを実施

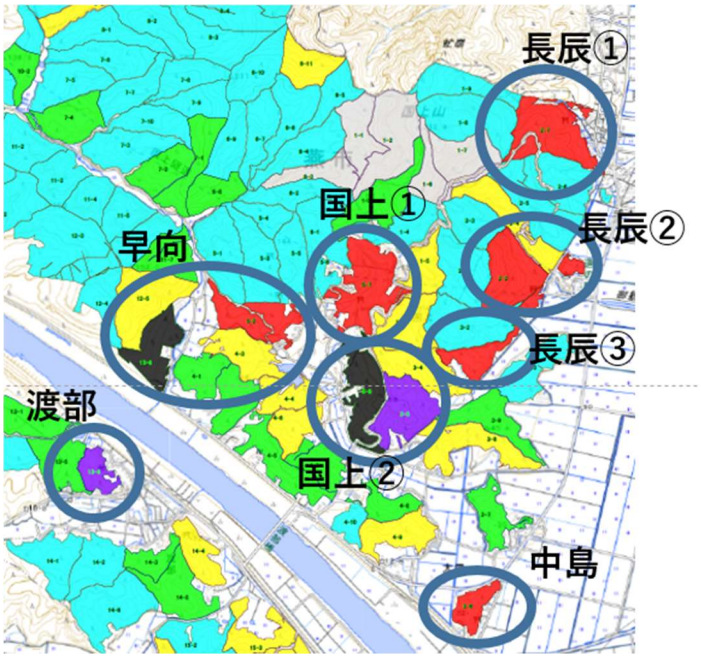
森林資源解析において点数が高かった森林を対象に地形的・環境的特徴からゾーニングを行いました。



森林資源解析による配点

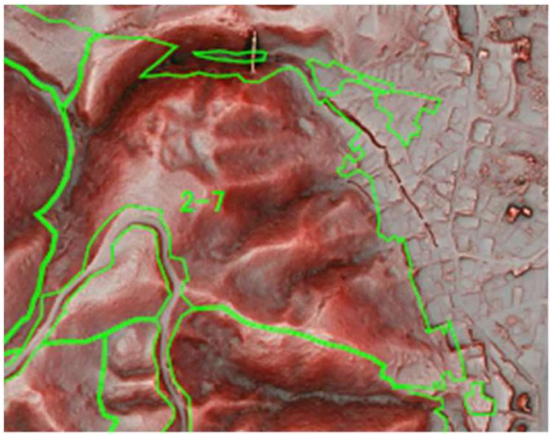
	500点以上
	400～500点未満
	300～400点未満
	200～300点未満
	100～200点未満
	100点未満
	スギ無し

ゾーニング



長辰①について

施業のしやすさ

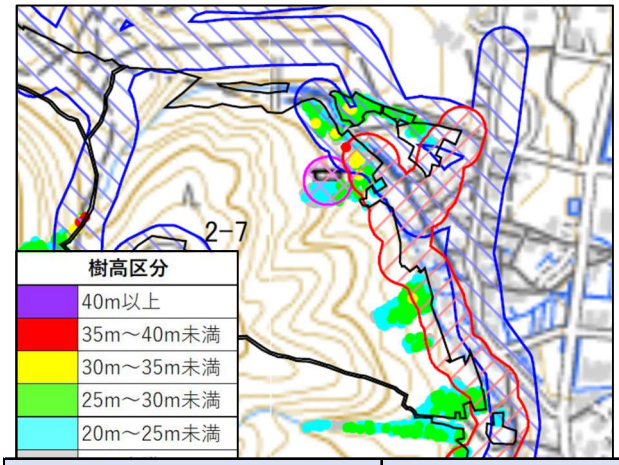


施業対象となるスギは民家の裏部分に集中している。

周囲の道も狭く、施業のしやすさとしては×

点数の高い理由

特筆すべき事項

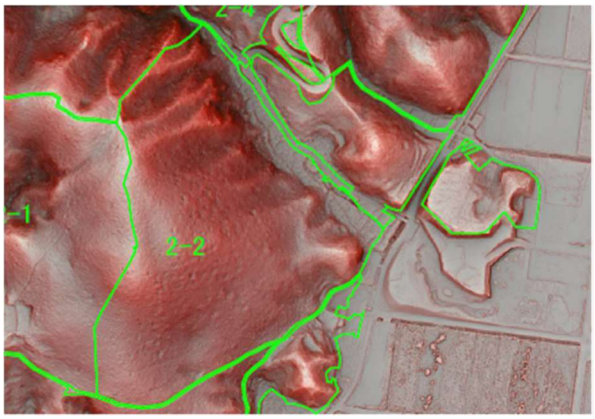


民家等 25m			遊歩道市町村道 25m			土石流 Y		
面積a×1.9			面積a×1.75			面積a×1.75		
面積 a	面積 割合	点数	面積 a	面積 割合	点数	面積 a	面積 割合	点数
44.83	4.77%	85.17	54.87	5.84%	96.03	50.18	5.35%	87.82

・民家の裏に 20～35m のスギが集中している
・集落内の道も狭く、林内にアクセスしづらい

長辰②について

施業のしやすさ



傾斜がなだらかな場所に
スギが多くある。

林道が隣接していることからも
施業を行いやすい。

点数の高い理由

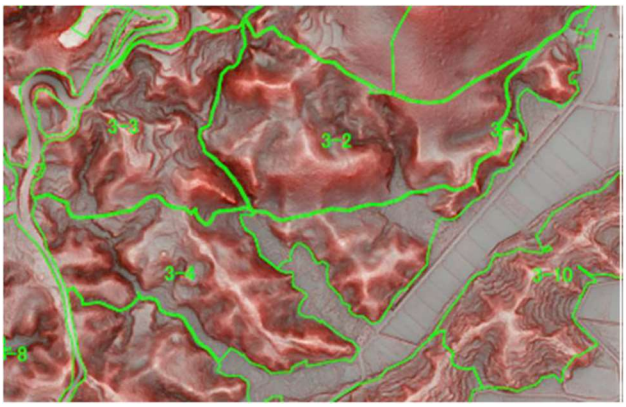
遊歩道市町村道 25m			土石流 Y		
面積a×1.75			面積a×1.75		
面積 a	面積 割合	点数	面積 a	面積 割合	点数
80.41	9.46%	140.72	50.70	5.97%	88.72

特筆すべき事項

・道の駅の裏ということもあり、人目につきやすい
・歩行者も多く、森林施業を行うことで観光面での効果も見込める
・林道国上長崎線がある
・土砂災害警戒区域のイエローゾーンが道の駅までかかっており、
　土砂災害の際に多くの方へ被害が及ぶ恐れがある
・小林班 2-4 も含めればまとまった面積で施業可能

長辰③について

施業のしやすさ

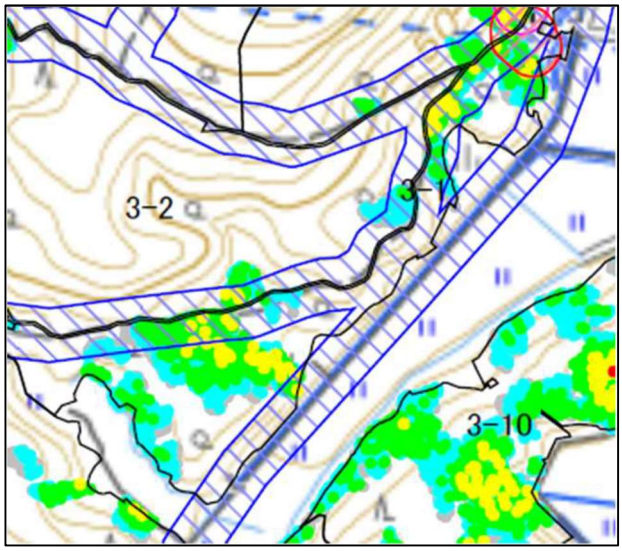


民家等の施設がほとんどなく、切った後の木を搬出しやすいと思われるが、既存の林道がある場所や傾斜がなだらかな場所ほどには施業のしやすさはない。

点数の高い理由

遊歩道市町村道 25m		
面積a×1.75		
面積 a	面積 割合	点数
117.60	21.07%	205.80

特筆すべき事項

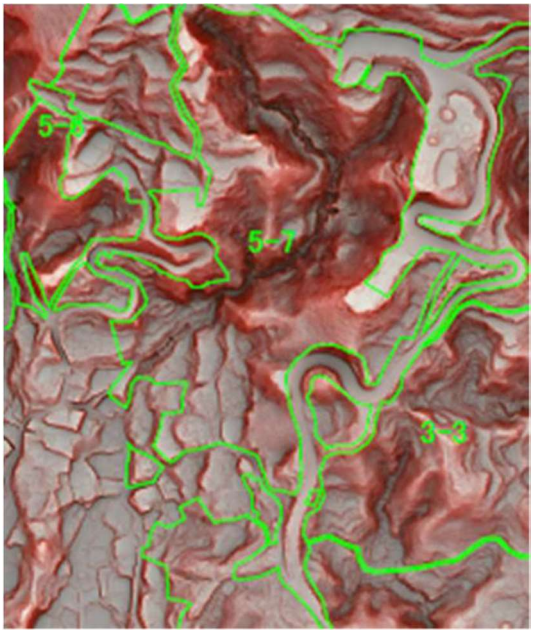


・遊歩道沿いに 20～35m のスギがある

樹高区分
40m以上
35m～40m未満
30m～35m未満
25m～30m未満
20m～25m未満
20m未満

国上①について

施業のしやすさ



傾斜が特に強く、機械等も入りにくいと思われる。

施業のしやすさは×

点数の高い理由

民家等 25m			遊歩道市町村道 25m			相対幹距比 混み過ぎ		
面積a×1.9			面積a×1.75			面積割合×1.4		
面積 a	面積 割合	点数	面積 a	面積 割合	点数	面積 a	面積 割合	点数
32.27	3.40%	61.32	110.54	11.64%	193.45	347.97	36.64%	51.30

特筆すべき事項

・山奥で連鎖的に倒木が発生している。大雨の際はその下流から土砂が流れ出てきた。
・保安林指定予定地のため、市による森林整備は保留とした。

中島について

施業のしやすさ

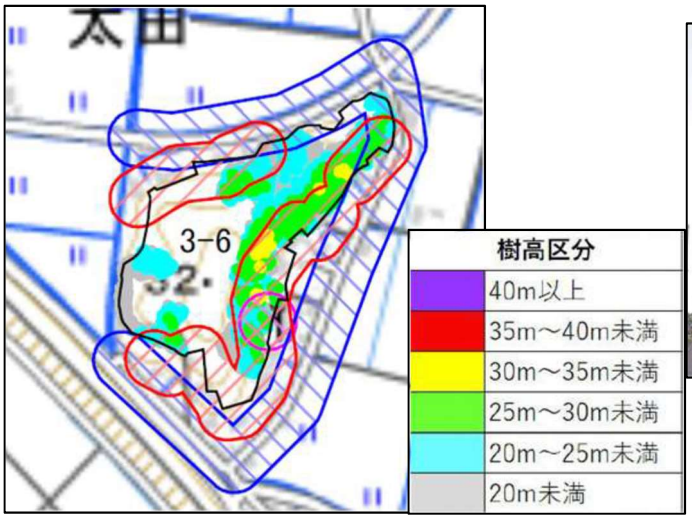
・施業対象となるスギは民家の裏部分に集中している。

・他の候補地と離れており、まとまった面積はない。

点数の高い理由

民家等 25m			急傾斜地 Y		
面積a×1.9			面積a×1.75		
面積 a	面積 割合	点数	面積 a	面積 割合	点数
88.42	29.56%	167.99	29.49	9.86%	51.62

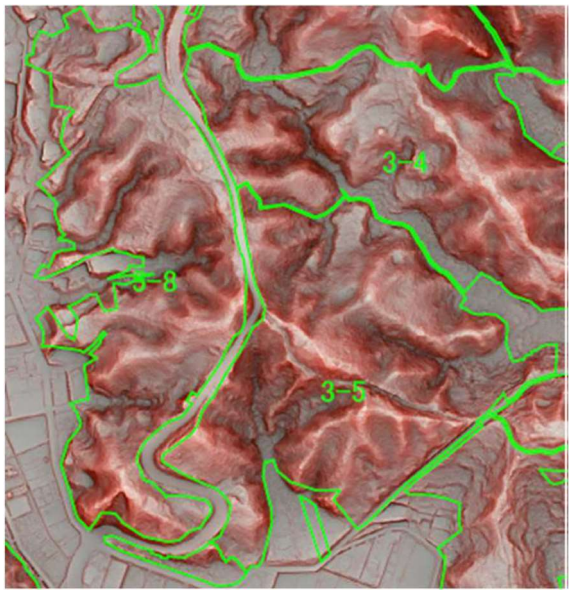
特筆すべき事項



・道はそこまで狭いというわけではない。
・民家の裏に 20～35m のスギが集中している。

国上②について

施業のしやすさ

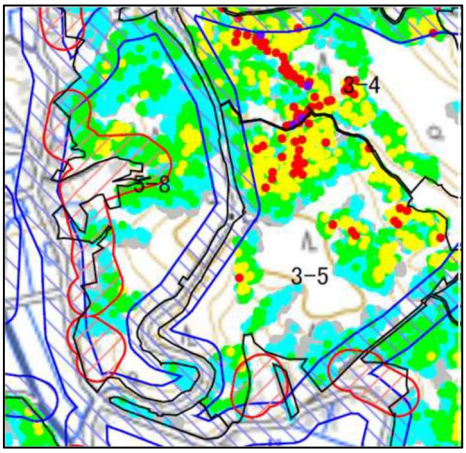


5-8 の西側は民家、東側は県道となっており施業の難易度は大きく違う。

点数の高い理由

遊歩道市町村道 25m			急傾斜地 Y			相対幹距比 混み過ぎ		
面積a×1.75			面積a×1.75			面積割合×1.4		
面積 a	面積 割合	点数	面積 a	面積 割合	点数	面積 a	面積 割合	点数
113.92	15.73%	199.37	33.83	4.67%	59.20	327.93	45.27%	63.37

特筆すべき事項



・5-8 の西側は民家、東側は県道となっており施業の難易度は大きく違う。

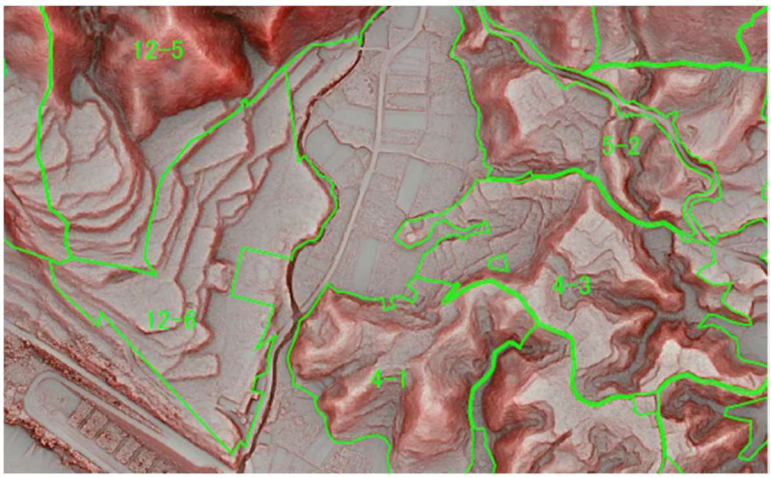
・国上寺や登山道などにも繋がる県道とも接しており、観光面での効果も見込める。

・範囲のほとんどが国定公園の２種に設定されている。

・県道沿いに電線があり、インフラ整備の補助金活用も考えられるため、２カ所目以降に施業すべき場所として検討。

早向について

施業のしやすさ

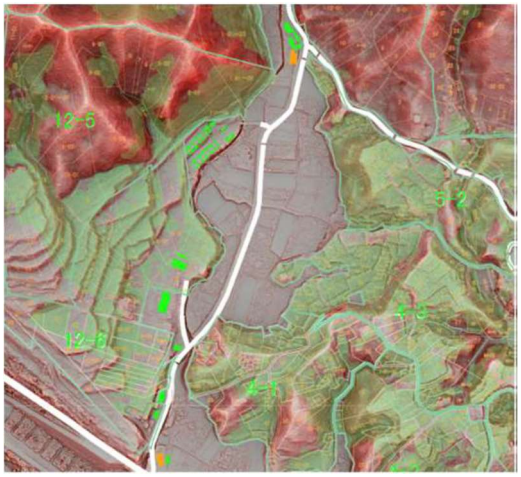


・傾斜がなだらかな場所にスギが多くある。
・4-3 には林道赤坂線も通っており、比較的施業は行いやすい。

点数の高い理由

民家等 25m			土石流 Y		
面積a×1.9			面積a×1.75		
面積 a	面積 割合	点数	面積 a	面積 割合	点数
47.33	7.77%	89.92	190.60	31.29%	333.54

特筆すべき事項



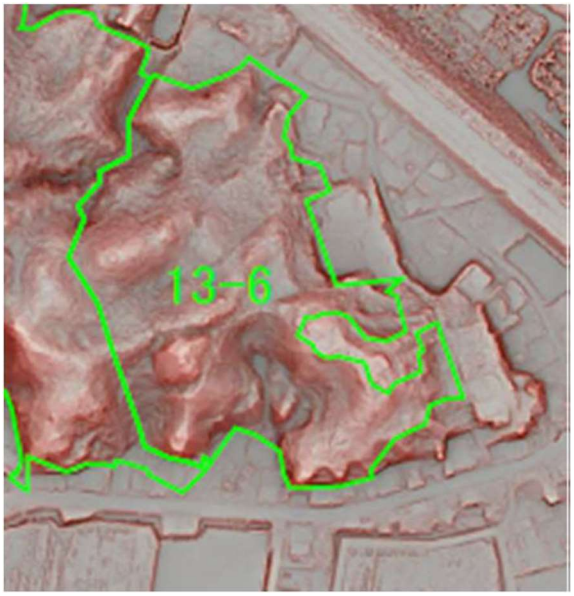
・市道に隣接している&急傾斜地のため高くなっているが、交通量の少ない市道である。

・12-6 の小班で県が地すべり対策の事業を行っている。

・住宅はあるが、ほとんど空き家である。

渡部について

施業のしやすさ

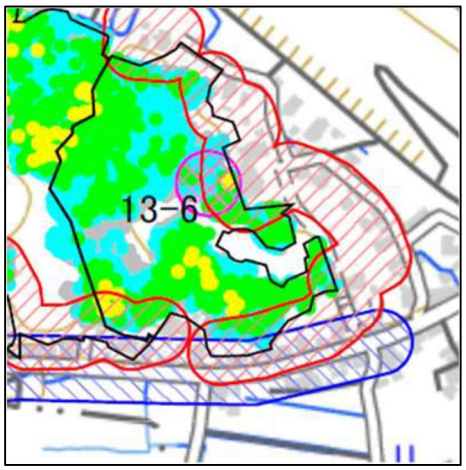


・比較的傾斜は緩やかだが、民家付近のスギもある。

点数の高い理由

山腹崩壊危険地区 危険度A			民家等 25m			相対幹距比 混み過ぎ		
面積a×1.8			面積a×1.9			面積割合×1.4		
面積 a	面積 割合	点数	面積 a	面積 割合	点数	面積 a	面積 割合	点数
125.27	42.71%	225.49	52.26	17.82%	99.30	270.86	92.36%	129.30

特筆すべき事項



・林地に面して民家がある箇所がある。

・すぐ北側で国交省の事業を行っており、山林の形状が変化する予定であるため、市による森林整備は保留とした。

ゾーニング総括

	長辰①	長辰②	長辰③	中島	国上②	早向
土砂災害警戒区域の範囲内に民家等がある	○	○	○	○	○	
民家等（空き家含まず）や使用が多い道路がある等人命への危険がある。	○	○		○	○	
自治会長アンケート倒木密集		○	○	○	○	
観光への効果		○	○		○	
施業のしやすさ		○				○
計	**2**	**5**	**3**	**3**	**4**	**1**

※1 国上①は保安林指定予定地のため施業は保留とした。

※2 渡部は国交省の事業予定地と近接するため施業は保留とした。

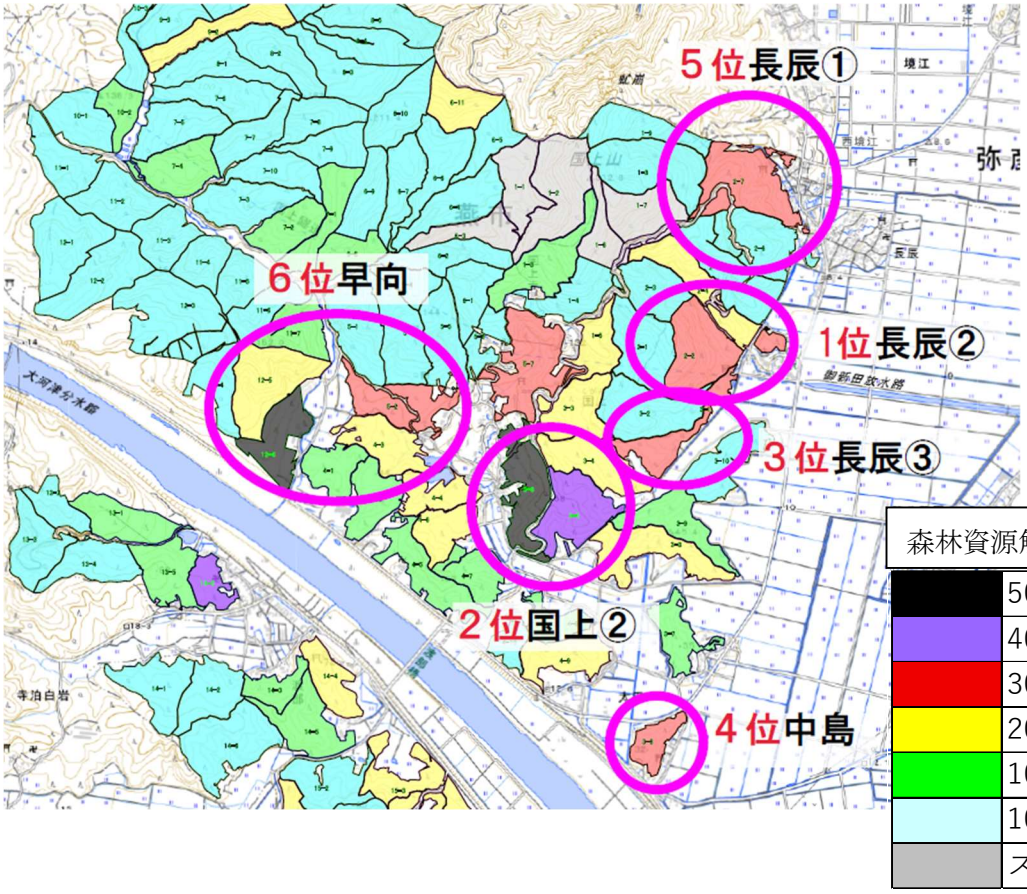
優先順位 最終検討

国上①及び渡部は特段の事情があるため、施業は保留とし、それ以外の６カ所について、委員会で協議し最終的な優先順位の決定を行いました。

協議の中でてた意見は以下の通りです。

長辰①	・林業の観点から見るとやりがいがありそう ・長辰②と一体的にやれるので、順番にやっていけばいい ・長辰（道の駅の裏、道路沿い）を一体的に整備することで観光面等で期待できる ・長辰2と一緒に続けて整備できればよいが、材を出すには道が狭く、作業道を入れる必要がある ・人命への危険がある
長辰②	・ゾーニング総括の表での該当数 ・林道国上長崎線があって施業しやすい ・道の駅があり、観光面に期待できる ・土砂災害、遊歩道の点数が高い ・道の駅があり観光面に期待 ・土砂災害のイエローゾーンがある ・林道沿いもある。 ・道の駅があり、まわりで災害があると目立つ ・ゾーニング総括の表で、全てに該当している
長辰③	・長辰②と一体的にやれるので、順番にやっていけばいい ・長辰（道の駅の裏、道路沿い）を一体的に整備することで観光面等で期待できる ・道の駅の近くであり、スギも多く、綺麗になれば外観的にもよくなる ・整備のモデルにもなるのではないか
中島	・人命や財産を重視 ・離れていて、小さい山である ・災害が起こっても、大規模な災害にはならないのではないか ・民家は近いが、ここを整備する理由が浮かばない ・人命への危険がある
国上②	・県道が隣接していて、急傾斜地、山腹崩壊危険地区があり、危険度が高い ・登山道もあり観光の面で無視できない ・ほかの事業やインフラ等でもできる ・車や人通りがある ・東西で傾斜の違いがあるが、効率的に作業をすれば、順次細かいところを見ながら進めていけるのではないか ・ゾーニング総括の表で、2位である
早向	・既に防止工事を実施しているので安全性が比較的保たれている ・何もしていなければ、優先順位は高くなったかもしれない ・地すべり事業を実施しているので遅くなる。後回しにしてもいいのではないか。 ・民家が少ない

協議を踏まえて各委員から点数付けをしていただき、最終的な優先順位は以下の通り決定しました

	委員長	委員①	委員②	委員③	委員④	合計	順位
長辰②	6	6	6	6	6	30	1
国上②	5	5	5	5	5	25	2
長辰③	3	3	4	4	2	16	3
中島	4	1	1	3	4	13	4
長辰①	2	4	3	1	3	13	5
早向	1	2	2	2	1	8	6

優先順位第１位：長辰②、第２位：国上②、第３位：長辰③、第４位：中島、第５位：長辰①、第６位：早向